

令和2年2月27日

取組評価レポート

サンパウロ日本人学校

○ テーマ

ICTを活用した遠隔での教員研修および授業実践のプログラム開発

○ 目的

日本人学校における高度グローバル人材の育成をめざし、日本人学校の教育の質を高めることを目的に、他の日本人学校と連携して、遠隔操作による教師研修や合同授業を実施し、その評価、成果も含めてプログラムを開発する。

○ 実践記録

月	日	時間	内容
6月	18日 (火)		リオ日本人学校と第1回合同会議
7月	3日 (水)	13:15～ 13:50	第1回遠隔実験（LINEにてリオと交信） サ日職員の紹介をひととおり行う。
	12日 (金)	12:50～ 13:25	第2回遠隔実験（Skypeにてリオと交信）
	18日 (木)	13:10～ 13:40	第3回遠隔実験（google meetにてリオと交信）
9月	20日 (金)	12:00	AG5 接続テスト（Zoomにて）
10月	29日	8:30～ 9:30	AG5 遠隔教員研修
11月	6日 (水)	12:00～	第1回 AG5 相談会（Zoomにて）
		14:15～	リオと zoom にて打ち合わせ ・相談会を受けて ・中3の交流について
		15:40～	リオと合同研修 リオの教員研修「ねこから逃げるプログラムづくり」を見学
		16:00～ 16:30	リオ吉村先生による第1回プログラミング教育研修 「プログラミング教育の概要」
	13日 (水)	8:40～ 9:10	第1回遠隔授業（Zoomにて） リオの中3生徒2名とサ日中3生徒5名が交流。 自己紹介、学校紹介、質疑応答を行う。
	21日 (木)	13:10～ 13:30	Zoomにて、リオと打ち合わせ ・3学期の道徳研究授業について ・中3交流授業は吉村先生のゲストティーチャーで27日5限に実施 ・教員研修も27日15:20～行う。準備についての打ち合わせ
	27日 (木)	11:00～ 12:00	第2回 AG5 相談日（Zoomにて）
		13:10～ 14:00	第2回リオと遠隔授業（中3） 吉村先生をゲストティーチャーとして 「正多角形をつくるプログラミングづくり」
	29日 (金)	15:20～ 16:00	リオと第2回プログラミング教育研修 「ねこから逃げるプログラミングづくり」 ゲストティーチャー吉村先生 サ日校職員がスクラッチを体験
12月	4日 (水)	8:20～ 9:10	第3回プログラミング合同授業（中3） 「ねこから逃げるプログラミングづくり」図書室にて ・吉村先生をゲストティーチャーとして ・リオの生徒2名も参加。

	12 日 (木)		第 4 回遠隔授業 (第 1 回 SP 小 5 プログラミング教育「正多角形をかく」 RJ 吉村先生をゲストティーチャーとして
	13 日 (金)		第 5 回遠隔授業 (第 2 回 SP 小 5 プログラミング教育「ねこから逃げるプログラム」 RJ 吉村先生をゲストティーチャーとして
1 月	7, 8, 9, 14 日		研究授業道徳指導案検討会
	20 日 (月)	5 時限	小 5 道徳①「同じ空の下で」 22 日の RJ との合同授業に向けての道徳（通信はなし）
	21 日 (火)	11:00～ 12:00	第 5 回合同遠隔教員研修
	22 日 (水)	3 時限	小 5 道徳②「同じ空の下で」 RJ の小 5、6 年生と遠隔交流授業
	24 日 (金)	業後	校内研究・研修会 研究授業検討会
2 月	7 日 (金)	13:30～ 14:50	特別教員研修会① 「海外における子女教育」 講師：後藤彰夫先生
		15:00～ 16:20	特別教員研修会② 「ICT を活用した遠隔での教育の質向上のためのプログラム開発」 講師：葭和宣チームリーダー ・後半で、来年度の校内研究についての話し合い
	13 日 (木)	11:00～ 12:00	第 6 回合同遠隔教員研修（ACSJRJSP）
	17 日 (月)	19:00～ 19:50	RJ 吉村先生と LINE 電話にて、来年度の AG 5 について相談 ○近況報告 ○来年度の取り組みについて

○ 成果

1 年目の成果 ⇒ ハード面の整備

遠隔授業や研修を行うための通信・指示機器をそろえ、TV 会議システムの設備が構築できたこと

- ・遠隔授業を行うための環境整備を充実させられたこと。
- ・中学 3 年生と小学 5 年生で複数回、リオと合同授業を行えたこと。
- ・合同授業を行う前段階として、児童生徒どうし交流し合えたこと。
- ・その交流のおかげで、授業の中で関わり合い、別の視点からの意見を知れたこと。
- ・リオの吉村先生の専門性を、ゲストティーチャーという形で本校の生徒に伝えられたこと。
- ・事前の教員研修で、リオの吉村先生からプログラミング教育について専門的に教員が学べたこと。
- ・合同授業を成功させるために、研究部員で授業検討や指導案検討を行い、個人の技量の向上につながったこと。
- ・職員全員が遠隔授業とループリック評価を体験できたこと。
- ・遠隔授業において、できることと難しいことなどが実感できたこと。
- ・岸先生の遠隔研修により、ICT を利用した遠隔教育だけでなく、様々な教授法について学び、教職員の理解が深まったこと。

○ 課題

1 年目の課題 ⇒ ソフト面の検討

何をどのように遠隔授業・研修に位置づけると効果的かということを検証し、見い出していくこと

在外の先生方も国内の先生方と同様、日々の教育活動で精いっぱいである。遠隔授業が児童生徒たちにとって有効であることは理解できても、そのための準備に多大な時間と労力を要するようでは、進めていくことが難しい。児童生徒のためとはいえ、準備に時間をかけるあまり日々の教育活動がおろそ

かになるようでは本末転倒である。そうならないように日々の教育活動と関連付けて、バランスよく進めていく必要がある。また、遠隔授業を進めていくことにメリットを見いだせず、疑問を感じている教員が少なくないことも事実である。いずれ日本に帰国する児童生徒にとって、もっとも交流したいのは日本国内の児童生徒である。しかしながら、時差が12時間あり、お互いの学校の活動時間の中で、交流することが不可能である。そのため、在外の日本人学校どうしで交流し、その有意義性を見出して実践していく必要がある。

リオとの合同遠隔授業において、授業をよいものにしようとすればするほど、教員どうしの打ち合わせに時間がかかっていった。学期に1回程度の研究授業ならできるかもしれないが、これを頻繁に行うことは現実的ではない。研究授業のようなレベルのものではなく、もっと気軽にできる内容で交流し、回数を重ねていくことで、要領よく進めていく方法を見いだす必要がある。

機器の設置については、3学期の道德の合同遠隔授業において、情報に長けた松下先生だからできた部分が多く、誰でもいつでも遠隔をできる環境を整える必要がある。今年度の予算で、ある程度の機器を購入し、機器を設置したが、まだ使える環境にないので、できるだけ早く環境を整えなければならない。その上で、今後、何が必要になってくるか検討し、環境を充実させたい。当面は、今回の授業実践で本校のタブレットPCの出力音声小さく、話し合いに支障をきたしていたので、それより性能の良いタブレットで実践し、リオのようにi-padの複数台導入も検討したい。

遠隔授業の内容については、道德の授業のように深めることが大切な教科では、難しいと感じた。どのような内容が遠隔授業に向いているのか、実践を重ねることによって検証していく必要がある。

○ 来年度へ向けて

岸先生の講話の中にあった「垂直的学びと水平的学び」において、遠隔授業は教科で深める垂直的学びよりも水平的学びに有効である。そのため、来年度の研究を教科で進めるよりも総合的な学習の時間で進めていく方が取り組みやすく、効果的であると考え。リオも総合で進める予定だと聞いている。研究テーマをリオと同内容にすることを考えたが、すり合わせが難しいので、それぞれで設定する。総合のテーマについても、リオとは人数の差があり、本校の全学年にて同一テーマで進め、交流することが現実的でないことから、総合のテーマは例年通り各学年で設定し、交流できるところで交流していく。また、以下がリオと来年度について相談した内容である。

- 1 来年度の校時や学校行事の変更は難しいので、研究をそこに合わせる。
 - ・AG5の来校日(RJ:9月8,9日、SP:9月10,11日)には、遠隔授業も行う。
 - ・6月と11月ぐらいに、合同研究授業を行ってはどうか。
- 2 来年度の時間割については、両校の教務で調整する。
 - ・総合的な学習の時間を合わせる(RJ:全校、SP:学年)
 - ・2時間続きの授業をどちらかの学校で行い、それをもう一方の同じ学年や教科の授業と合わせることはできないか。
 - 例) SP:中学理科 RJ:中学理科(どちらか2時間続きの授業)
 - RJ:小学4年社会 SP:小学4年社会(どちらか2時間続きの授業)
 - ・朝の会や休み時間の交流
 - 時間はずれるかもしれないが、少しの時間でも話したり、様子を見合ったりすることはできないか。
- 3 合同会議を毎月できないか。(15分程度の短時間でも)
 - ・4月は顔合わせを中心に、
 - それからは、遠隔教育について計画について相談したり、進捗状況を報告したりする。
- 4 教科・学年での相談を普段から行う。
 - ・顔合わせ後、それぞれで時間を調整して行う。
- 5 総合的な学習での連携をする。
 - ・SP:小学部 各学年でテーマをもってやっている。
 - 中部部 2時間の総合的な活動の時間と1時間の裁量の時間で
 - ・総合ブラジル ポルトガル語の先生を中心に、ポルトガル語、ブラジルの文化、歴史、文法なども
 - ・英会話や行事等に活用
 - ・RJ:全校で、週2時間の総合的な活動の時間として全校で取り組んでいる
 - ・SPでは、学期に1回程度、総合の発表をし合ってはどうか。
 - RJでは、調べる内容について質問したり、意見を出し合ったりして、発表し合ってはどうか。

6 教科等の授業交流について

- ・研究授業ではなくもっと気軽にできないか。
SP 旧コンピュータ室に機器を設置して交流が簡単にできる工夫をしたい。
- RJ iPadなどで、簡単に交流できるのではないか。
- ・交流の様子を録画することで、記録に残せ、他の教員も見られるのではないか。
- ・授業以外でも、朝の会や休み時間に交流できないか。

以上の内容を実施可能かどうか検討し進めていきたい。

○研究資料

- ・RJ 吉村先生のプログラミング研修
- ・文部科学省ホームページ『小学校プログラミング教育に関する研修教材』から
 - 「小学校プログラミング教育の概要1」(11月6日)
 - 「小学校プログラミング教育の概要2」(11月6日)
 - 「Scratch 正多角形をプログラムを使ってかく」(11月6日)
 - 「Scratch ねこから逃げるプログラムを作る」(12月4日)

令和2年2月27日

研修・授業風景の写真

サンパウロ日本人学校

○合同遠隔教員研修の様子（10月29日）



○リオと中3プログラミング合同授業の様子（12月4日）



○小5道徳合同授業の様子（1月22日）



令和2年2月27日

児童生徒・教職員へのアンケート結果

サンパウロ日本人学校

○スクラッチ「ねこから逃げるプログラミングづくり」遠隔交流についてのふり返し（中3生徒）

- ・先生の話をしっかり聞けた。
- ・もっと交流して会話を楽しめたらよかった。
- ・自分から質問できるようにしたい。
- ・プログラムはしっかりできた。ゲームの工夫をいろいろと出し合えてよかった。
- ・プログラミングに集中しすぎて、コミュニケーションをとることができなかった。次回は、共同でプログラミングをするなど協力して行いたい。
- ・前回と違い、リオ日本人学校の生徒と交流しながら学習することで、彼らの意見から様々なことを学習できた。次回は今回よりも会話を増やして交流できるようにしたい。

○道徳合同遠隔授業、研究協議ふり返し（教職員）

- ・遠隔の難しさ、題材選びの難しさを感じた。交流、共有できる素晴らしさをそこから深めることができればよいと思う。
- ・遠隔授業を通して、お互いの学校の長所や短所が見えてくる。それぞれの長所をそれぞれの学校が取り入れるツールであると感じた。
- ・リオの授業の様子を遠隔授業を通して見せていただいたおかげで、サ日らしさとは、また、サ日の子どもたちに足りない部分について考えることができた。物事をいろいろな視点で考え、他の友だちと異なった意見を発表できる力をつけていくことが必要だと感じた。
- ・日常の授業の中で、どれだけ落とし込んでいけるかがポイントだと思う。そのためには、機器の整備やマニュアルなどを整えなくてはならない課題が多くある。
- ・学校経営ともリンクさせ、中等学校づくりを目指して、その中に校内研究を位置づけると良いと思う。
- ・道徳なのか特活なのか ICT 活用なのか皆が迷ったように、ねらいの絞り込みが大切だと分かった。ICTに絞ってしまうと本質の授業が薄れる可能性がある。それらのバランスをよく考え、子どもの活動が中心になる授業を組み立てていきたい。
- ・道徳がねらうべき価値の追求と遠隔授業がもたらす効果との接点は難しいが、焦点化することで、遠隔と道徳の良い関係が見いだせると感じる。また、今回の実践で他校と通信する長所は確かなものであることを実感した。いつ、どんなときに、どんなところで遠隔を仕組むかが今後の課題となると思う。
- ・ICTを取り入れていくことの難しさを感じた。授業の中でどれだけ気軽に使えるかは、とても大事だと思う。そのようにしていくために、「深めるところ」をしっかり見極めて、有効に使っていくべきだと思う。道徳を深めていくという原点は、ずれてはいけないと思う。
- ・話し合いをして様々な意見が出されたことはとても良かった。今後、修正していくべきことが見えて

きて来年度につながると思った。

- 日々の授業、行事等、年間の仕事をこなしたうえでの研究と考えると、少ない時間でどうアプローチしていかなければならないか考えどころだと思った。
- リオ日本人学校から学ぶことが多くあった。リオとサ日の違いの一部分を見ることができた。遠隔教育システム活用の授業で、お互いに共有できることも多い。今後もさらに他教科や様々な活動に生かすことが多々あると思う。
- 遠隔授業の課題と可能性が多く発見できた提案だった。通信の状態で意見を待ったり、呼吸が合わずテンポがずれたりしていたので、使い所を絞って利用することが必要だと思った。遠隔地と通信する意図は何か。今回は少人数での話し合いを深める手段であったが、他の活用についても考えてみたいと思った。
- 使う場面、使い方が大切だと思った。道徳など意見を聞き合うような場面は難しい。これからの時代、遠隔教育を続ける意味はあると思う。世界が近くなったり、他をよく知ったりして、自分を見つめ直す機会になるかもしれない。
- それぞれの学校での指導者による遠隔のやりとりがとても新鮮で、率直にすごい実践だと感じた。また、遠隔による効果はなかなか難しいという点も見えた。使い方をこれから考えていけば、効果的な学習指導方法になるので、研修を続けていきたい。
- 道徳で考えを深めるためにたくさんの試みをしたおかげで、課題がたくさん見えた。遠隔がどんな場面で有効なのか、不向きなのか、どの場面で使うとよいか、使いたいと考えて授業を組み立てたい。

道徳指導案

改定版

サンパウロ日本人学校小学部第5学年1組

リオデジャネイロ日本人学校小学部第5学年・第6学年

日 時 令和2年1月22日(水) 3校時

場 所 サンパウロ日本人学校

図書情報センター(図書室)

リオデジャネイロ日本学校5・6年教室

指 導 者 サンパウロ日本人学校 松下洋志(T1)

リオデジャネイロ日本人学校 竹原順也(T2)

機器操作支援 サンパウロ日本人学校 松本智司(S1)

リオデジャネイロ日本人学校 吉村正浩(S2)

1 主題

同じ地球に生きている〔4-(8)国際理解・国際親善〕【特別の教科 道徳 C-(18)】

2 ねらいと教材

(1) ねらい

- ① 他国の人々や異国文化の中に、自分と共有される多くの感性や思いがあることに気づき、それを大切にしながら、自分ができることについて考え、進んで国際親善に取り組もうとする心情を育てる。
- ② 思考ツール(ウェビングマップ)を活用し、児童の思考を広げて、多面的・多角的に考える指導方法の工夫。
- ③ 遠隔教育システムを活用し、多様な意見や考えに触れたり、協働して学習に取り組んだりする指導方法の工夫。

(2) 教材名 「同じ空の下で」 (新しい道徳 5 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 指導内容について

本主題である「国際理解、国際親善」〔高学年 C-(18)〕「他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。」について指導する。「国際理解、国際親善」は、グローバル化が進展する今日、重要な課題になっており、これらの課題に対応できるようにするためには、他国の人々や文化に対する理解とこれらを尊重する態度を養うようにすることが求められる(学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 2017 より)。国際交流が盛んになっていく今後はますます大切になってくる指導内容であると考えられる。

(2) 児童について

①サンパウロ日本人学校

本校は在外教育施設であるため、その利を生かし児童は現地校との交流や現地施設への校外学習等でブラジルの文化に触れる機会が多い。日常生活を送る上でも買い物や習い事、旅行等で当地の人々や文化を身近に感じている。また、現地校との交流活動では、言語の壁を越えて、現地校生徒

と交流する中でたくさんの文化的な「違い」や「同じ」の気付きがある。これらの経験を生かし、広く世界の諸情勢に目を向けつつ、主体的に他国の人々や文化について理解し、尊重しながら、国際親善に努めようとする心情を育てたい。

さらに、今回はリオデジャネイロ日本人学校7名の児童とICT機器を活用し遠隔合同授業として行う。協働して学習に取り組むことで、多様な意見や考えに触れさせたい。

②リオデジャネイロ日本人学校

本校の児童はリオデジャネイロでの生活経験も長く、また日本語モデル校や連邦大学との交流活動を重ねてきたこともあり、ブラジル人やブラジルの文化に親しみ、身近に感じている。これまでの生活経験や交流活動から、互いの文化の相違点を好意的に受け止め、進んで交流し、より親しくなりたいという意識が高まっている。その一方でリオデジャネイロには、大きな経済格差があり、貧困にあえいでいる人が沢山いることを生活の中で身近に感じてはいるが、自分ができることをしていきたいという意識は低い。またブラジル以外の国についての交流経験や知識は少なく、世界中には生活に困窮している子ども達がいることを知っているという程度の理解にとどまっている。

そこで本時では、自分と同じ世代の子ども達が、暮らしの中で貧困や紛争などの国際問題をかかえていることに気付き、その解決に向けて自分のできることを考え続け、進んで取り組んでいこうとする心情を育てたい。

今回の授業では、体験入学の児童3名と一緒に学習することやサンパウロ日本人学校と遠隔合同授業を行うことで、多様な見方や考え方に触れ、現代的な課題を多面的・多角的な視点から考え続ける姿勢を育てたい。

(3) 教材について

世界の様々な国の人々と自分たちの思いは同じであることを理解し、世界の人々が幸せにくらすためにはどんなことが必要か考えることができる教材である。

指導にあたっては、子どもたちに3枚の写真(宝物を持った笑顔の女の子・涙をためた男の子・肩を組んで笑う子どもたち)を見せ、その子どもの様子や気持ちについて考える活動を通して、世界中の人々に共通した感性や思いがあることに改めて気づき、共感させることが大切だと考える。

その思いをふまえたうえで、世界中には今この瞬間にも苦しんでいる子どもたちがおり、その原因となるものを知った上で自分のこととして考えさせたい。自分にできることを考えるなどして、進んで他国の人々とつながり、交流活動を進めたりより親しくしたりしようとする国際親善の心情を育てたい。

(4) 話し合いを一步深める手立て

世界で苦しんでいる子どもたちについて、グループごとに思考ツール(ウェビングマップ)を活用し、児童の思考を広げて、多面的・多角的に考えさせる(国際理解)。グループごとに作成したウェビングマップの言葉の中から、自分にできること(国際親善)を取り上げ、全体でウェビングマップを作成する過程を通して、考えを深めさせたい。

4 指導について

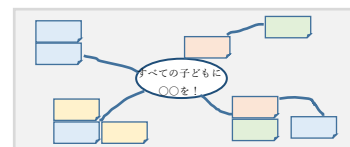
(1) 指導過程 1/2 時間目 (各校で指導)

ねらい

世界の子どもたちは、自分と同じ感性や思いを共有していることや、その一方で暮らしの中で貧困や紛争などの国際問題を抱えていることに気づき、みんなが幸せに暮らすために必要なことを、進んで考えようとする心情を育てる。

	学習活動	指導・支援
導入 5分	1 本時の学習課題を確認する。	○いろいろな国の言葉や文化について知っていることを出し合う。 ○自分たちが経験したことを思い出させる。 ・交流で経験したこと・あいさつ ・遊び・食事・習慣など
	世界中の子どもたちの様子や気持ちについて考えよう。	
つかむ 10分	2 教材を読んで話し合う。 (1)教材の前半部分を教師が読む。 (2)写真から子どもたちの様子や気持ちについて考える。 (3)他の国の子どもたちと自分の「同じ」を探す。	○「この子どもたちはどんな気持ちだと思いますか。」 ・うれしそう・悲しそう・幸せそう ○3枚の写真を提示し、同じ世代の子どもたちの様子や気持ちを自分の経験をもとに話し合わせる。 「みんなも世界中の子どもたちと同じように感じた経験がありますか。」 ・大切な物：家族、友達、ゲーム、サッカーボール、賞状… ・かなしい時：けんかした時、怒られた時、負けた時、人が死んでしまった時、失敗した時… ・幸せな時：友達と遊ぶ時、家族といる時、おなかいっぱいの時、ほめられた時、誕生日… ◎「他に自分たちと世界中の子どもたちとの、「同じ」はどんなものがあるかな。」 ワークシートに記入させ、発表させる。 ・好きなサッカーチームがある、怒ることがある、眠くなる、好きな人がいる、ゲームが好き、成長する… ○自分と世界中の子どもたちに共通した感性や思いがあることに改めて気づき、共感できるようにする。

知る 15分	3 教材の後半部分を読む。 ・写真・資料を見て、世界では飢えや貧しさのために苦しんでいる子どもたちがいることを知る。 ・自分たちの生活をふり返る。	○「5秒間に一人の子どもがなくなっている。また、その原因の半分は栄養不良が関係している。」ことを知る。 ・5秒間に一人の子どもが亡くなっているなんて残酷。… ○開発途上国の5歳未満児の死亡数について資料を見ながら確認する。 ・アフリカに多い。・ボリビアも黄色だ。・こんなにたくさんあるなんて。… ○「命のメジャー」を使って栄養不良について体験的に知る。 ○動画「南スーダンマリアちゃん」を見る。 ・こんなに細いの。・二の腕？・同じ子どもなのに悲しい。… ○「世界で苦しんでいる子どもたちが、たくさんいます。他にどんなことを知っていますか？」 ・虐待・不衛生な場所に住んでいる・子ども兵… ○動画「子どもたちの惑星」・「Water Aid Japan(水)」を見る。 ・ショックだった。・聞いたことはあるけど、あまり知らない。 ○「世界の子どもたちは今」を使って、世界中の子どもたちが様々な状況にあることを知る。 ・栄養って大事だな。・学校に行けることが当たり前だと思ってた。… ○「世界には様々な状況で暮らす子どもたちがたくさんいること知り、自分たちの生活を改めてふり返ってみると、どんなことが心に思い浮かぶかな？」 ・贅沢だった。・幸せだと思う。・食べ物を無駄にしていって申しわけなく思う。
広げる ・深める 10分	4 ウェビングマップをつくる。 ・「すべての子どもに〇〇を」についてウェビングマップをグループごとにつくる。	○「子どもたちには何が必要だろうか？」 『すべての子どもに〇〇を』に入るものは何か、考えてください。」 ○自分の考えを付箋紙に記入する。 ・笑顔になれる場所・食料・清潔な水・教育・平和・平等… ○グループごとに付箋紙を台紙に貼りながらウェビングマップをつくる。 ○子どもによって付箋紙の色を変える。 ○書き加えたり、まとめたり、広げたりしていく。 ○各グループでまとめの文章を考えマップに記入させる。
まとめ	5 本時を振り返る。 (1) 振り返り・感想をワークシートに記入する。	○始めからここまでの学習の流れをふり返る。 ○「世界には自分と同じ子どもなのに、苦しんだり、厳しい状況で生活したりしている子どもたちがいることを知りました。



5分		みなさんはどんなふうに思い、どんなことを考えましたか。」 ・他にもどんなことが世界中で起きているのかもっと知りたくなりました。 ・自分に何かできることはないかと思いました。 ○数名に発表させる。
	(2) 教師の説話を聞く。	
評価	・自分と同じ感性や思いをもっている子どもたちが、貧困や紛争などの国際問題を抱えていることに気付くことができたか。(本時における価値理解の深まり) ・みんなが幸せに暮らせるために必要なことを、進んで考えようとする意欲が高まったか。(本時における意欲の高まり)	

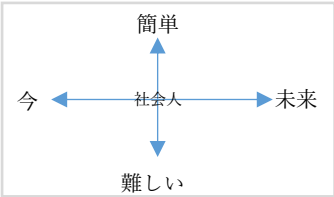
(2) 指導過程 2/2 時間目 (本時)

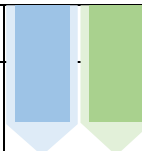
ねらい

世界の子どもたちが幸せに暮らせるために、自分に出来ることを考える中で、進んで他国の人々とつながり問題を解決しようとする心情を育てる。

	学習活動	指導・支援	ICT の活用方法	接続形態
導入	1 アイスブレイキングをする。	○遠隔接続に慣れることと、両校の児童間の緊張を和らげる。	・ ZOOM により、教室全面を撮影し、互いに画面やスクリーンに相手校の様子を映し出す。	教室—教室接続 学習者グループ—学習者グループ接続
5分	2 前時の学習をふり返る。	○自分と世界中の子どもたちに共通した感性や思いがあることや、一方で自分たちとは違った状況で生活する子どもたちがいることを思い起こさせる。		
広げる・深める	3 学習課題を確認する。			
	世界の子どもが幸せにくらすためには大切なことは何だろう。			
10分	4 各班の「すべての子どもに○○を」を発表する。	○どんな意見が出て、どのようにまとめたのかを発表する。 ○「どうやったら、その○○を世界中の子どもたちが手に入れられるんだろう。」 ・世界中の支援・寄付・政治家が考える・国連による支援… ○「みんなが他の国のことを考える必要があるのか。」 ・考える必要がある。・同じ地球で暮らしているから。… ○「みんなにできることはあるのか。」	・各班のマップを大きい画面に写し、発表者の姿を前に映し出す。(SPS1・RJS2)	

		・ちょっとはある。今は難しいけどある。…	
自分に向かう25分	5「国際理解・国際親善」についてみんなの意見をまとめていく。 ・各班の発表を聞いて、自分なりの〇〇を選ぶ。	◎「自分にどんなことができるか。」について話し合う。「今すぐじゃなくてもいい。」「一人じゃなくてもいい。」ことを伝える。 ○「すべての子どもに〇〇を」の自分なりの答えと似た意見の児童でグループを作る。(4グループ程度) ○児童の別れ具合に応じて各グループで通信機器を接続する。 グループ① (食べ物・ごはん…) ・食べ物を送る。 ・残さず食べる。 ・濾過器をつくる。 ・募金する… グループ② (きれいな水・衛生・健康…) ・井戸を掘る。 ・濾過器をつくる。 ・資源を大切に使う。 ・健康でいられることに感謝する。 ・知る・世界に知ってもらう。… グループ③ (教育・学校・学び…) ・学用品を寄付する。 ・将来自分がその先生になる。 ・子どもが働かなくてもいいようにする。(井戸を掘る)… グループ④ (幸せ・笑顔・明るい未来…) ・手紙を送る。	・各グループに教師が接続機器支援として入る。 ・話し合いは各グループで進行役を決めて進めていく。

	・出てきた考えについて発表する。 	・必要なものを送る。 ・相手の事を思う。 ・ボランティア活動に参加する。… ○各グループの話し合いから「自分たちにできること」を発表する。 ○発表させながら、ZOOM ホワイトボード上に自分たちの考える位置も伝える。(S2 が画面上で移動させる。) ○『発表を聞いて「なるほどな。」や「自分だったらこうするな。」などの考え意見があるかな。』 ・物やお金を送ることは今は難しいけど、大人になった時には今より簡単にできると思います。 ・完食することや物を大切にするなどの今すぐ身近にできることがたくさん出たよ。…	・ZOOM ホワイトボードに S2 が「言葉」を打ち込んでいく。	
まとめ 5分	6本時を振り返る (1) 振り返り・感想をワークシートに記入する。	○始めからここまでの学習の流れを確認する。 ○「『世界の子どもが幸せにくらすために大切なことは何にか。』『また、そのために自分たちがどんなことができるか。』について考えてきました。活動を通してどんなことを考えましたか。今どんなことが心に思い浮かんでいますか。」 ・他にもどんなことが世界中で起きているのかもっと知りたくなった。 ・自分に何かできることはもっとないかと思った。これからも考えていきたい。 ○数名に発表させる。 ○「同じ空の下で」につながるようまとめる。		

	(2) 教師の説話を聞く。			
事後	7 挨拶をして通信を終える。	○各班であいさつをする。 ○全体であいさつをする。		
評価	・国際問題を解決するためには、自分に出来ることを考え、進んで他国の人とつながりながら取り組んでいくことが大切なことを理解できたか。 (本時における価値理解の深まり) ・自分に出来ることを考え、進んで他国のの人々とつながりながら国際問題の解決に向けて取り組んでいこうとする意欲が高まったか。 (本時における意欲の高まり)			

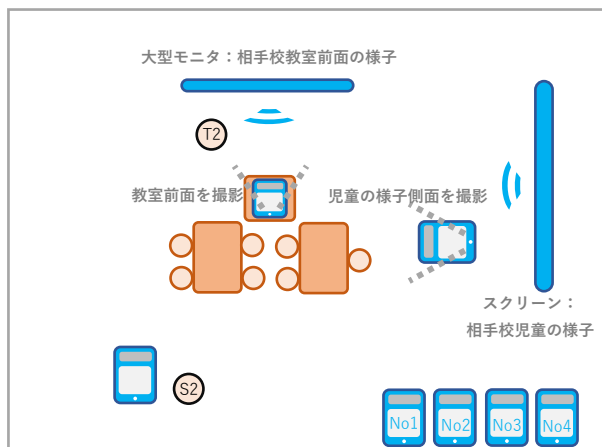
(3) 接続・通信について

接続の種類	接続名 (担当教諭*)	ミーティング ID/URL	使用 PC		会議ホスト (アカウント)
			SP	RJ	
全体用 ZOOM プロ版	A①		教師用 PC モニタ用 PC 等		海外子女財団 (後藤先生)
グループ用 ZOOM 無料版	B① (SP/T1 松下)		児童用 PCNo.1	PCNo.1	サンパウロ日本人学校 (松下 Gmail アカウント)
	B② (SP/S1 松本)		児童用 PCNo.3	PCNo.2	サンパウロ日本人学校 (松下 Facebook アカウント)
	B③ (RJ/T2 竹原)		児童用 PCNo.5	PCNo.3	サンパウロ日本人学校 (松下 Zoom アカウント①)
	B④ (RJ/S2 吉村)		児童用 PCNo.7	PCNo.4	サンパウロ日本人学校 (松下 Zoom アカウント②)

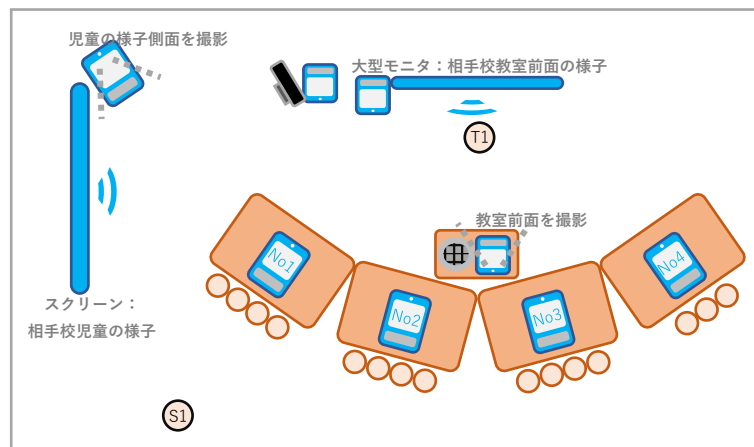
* 担当教諭とは、グループごとの話し合い時にネット接続やマイク等の調整をするためのものです。

(4) 配置図

リオデジャネイロ日本人学校



サンパウロ日本人学校



ノート PC/タブレット



マイク・スピーカー



ビデオ撮影方向



映像映し出し方向



人(教師・児童)



プロジェクター